



「やればできるの精神」で

この夏休み期間、自分自身の計画を確実に実践していくためには、自分を「その気」にさせることが大切です。

江戸時代、米沢藩主に上杉鷹山と言う人がいました。その上杉鷹山が家臣に示した歌に有名なものがあります。「なせば成る。なさねば成らぬ、何事も。成らぬは人のなさぬなりけり。」という歌ですが、皆さんも何度か聞いたことがあると思います。

この歌の意味は「人間やろうと思って行動すれば、必ずできる。できないのは、やろうとしていないからだ。」ということです。

上杉鷹山が、この歌の中に「何事も」と言葉を入れていることが注目すべきことなのです。「何事も」ということは、これは例外なく、どのような事でも「なせば成る。」とっています。「やればできる。どんなことだって。やってみようじゃないか。自分の力はすごいものがあるんだ。」とっていますのです。頭の良さでなく、能力があるなしでなく、本気でやろうとするかどうかで、物事は決まるとっています。

しっかりとした計画を立て、自分を「やる気」の固まりに変身させて、この夏を有意義なものとしてください。「なせば成る。何事も」の「やればできるの精神」は大切です。自分をその気にさせて、自分の将来を見据えて、この夏を頑張りましょう。

① 理解を伴う基礎固めを徹底！

夏は、入試に最も大切な基礎力を完成させるチャンスです。その方法は、各教科の基礎・基本事項を徹底して復習することです。基礎力があれば、入試問題を含めた様々な問題に対応できるようになります。教科書の見直し、これまでの模試やテストの見直しなどで理解を深めよう。高校3年生は演習に入る秋以降、これらにかけける時間は多くありません。

② 必要分野の弱点補強を！

不意得意科目が解消できず涙をのむ受験生は多い。夏はそれを解消する絶好の機会です。とはいえ、夏の学習は不得意科目だけではないので、教材・時間配分・勉強の仕方など工夫が必要です。難しすぎず自分のレベルにあった教材を徹底してやろう。不得意科目は頭が疲れていない、好きな科目の間に行うと効率が良い。

③ 志望校の決定と合格への執念！

自分が追求している対象を確認し、その達成には何が必要かを考えれば、自ずと夏の対策は見えてくる。将来自分がやりたい目標に沿った大学群をしっかりと選び、決定しよう。目標とのギャップを可視化して、目標に近づくための取組を行いましょう。

<学習計画を立てる際のポイント>

夏の時期を、①7月下旬 ②8月上旬 ③8月中旬 ④8月下旬の4つの時期に分けよう。

この時期に効率的に学習を行うためには、時期を区切って学習計画を立てることがポイントです。それぞれの時期に、「いつ」「何を」するのかを考え、優先順位をつけて取り組みましょう。

無理のない計画を立てる

学習内容を確実に理解するためにも、無理のない計画を立てるようにしましょう。予定通りに進まなかった場合に備えて、例えば、1週間のうち1日は予備日をつくるなど、計画の遅れを取り戻すための時間を用意しておくことも大切です。

学校の課題に最優先で取り組む

まずは、夏休みの課題を確実に終わらせることを最優先にしましょう。夏休みの課題には、これまでの学習のポイントが多く含まれているので、課題にしっかり取り組むことが、復習につながります。

苦手分野の復習に取り組む

まとまった学習時間をつくり、苦手分野を克服するチャンスです。苦手だと思えるところがある人は、問題集の基本問題から取り組むなどして、ぜひ復習に取り組んでみましょう。

毎日の学習記録をつける

何時間学習したか、計画通りに取り組めたかを毎日振り返り、記録するようにしましょう。毎日振り返ることで、計画通りに進んでいなくても、軌道修正を行うことができます。

<自主学习時間確保のポイント>

「生活の3点」と「学習開始時間」を固定する

生活の3点とは、「起床」「夕食」「就寝」です。これらの時間と学習開始時間を固定して、規則正しい生活を心がけましょう。学習開始時間は、「起床後～登校までの間」や、「夕食前」など、自分が集中して取り組める時間を探してみましょう。

まとまった学習時間をつくる

問題演習には時間がかかるものです。まとまった時間をつくり、じっくりと取り組んでみましょう。そうすることで、わからない問題に対して粘り強く取り組む力を伸ばせます。

休日の時間を有効利用する

平日にできなかったことは、休日にカバーしましょう。計画の遅れも休日の時間を有効利用することで取り戻すことができます。